

2024年6月15日 危機言語・イントネーションPJ合同研究発表会

# 沖永良部語復興 Can-doリスト作成の試み —しまむにサロン参加者との第1回 ブレインストーミングに基づいて

岩崎 典子（南山大学）

高 智子（国際交流基金関西国際センター）

# 言語復興：沖永良部語の場合

- 40代以上理解はできる（横山・籠宮2018）
- もっと話せるようになりたいという人が多い（横山2021,2022）
- 親世代が話すようになれば年少者も沖永良部語を習得できる可能性（横山2020）

→話せるようになりたい人が話す能力を伸ばすためには、目標設定、学習方法の選択、評価のために、その能力基準が必要

→CEFR「ヨーロッパ言語共通参照枠」を参考にcan-do listを作成する

# CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠)

- *Common European Framework of Reference for Languages*
- 欧州評議会 (Council of Europe) が開発。

→ 言語技能 (話す、聞く、読む、書く) の高い能力を目指す教育のために開発されたというわけではなく、

→ ヨーロッパの多様な言語と文化が共通の貴重な資源であることを意識して、**それらを保護し、発展させていくために**開発された。すなわち、言語や文化の多様性がコミュニケーションのバリアではなく、互いを理解し、豊かにするための教育に役立てるため。

# 何を目指すか

主にヨーロッパ各国で使われている言語を互いに学ぶことを奨励し、ある言語を学んだ人が容易にその能力を他国で評価してもらうという目的もあるが、

国際言語としての英語を偏重することなく、

→言語・文化の多様性を維持し、継承していくことを目指す。

そのための理念として挙げられるのが、

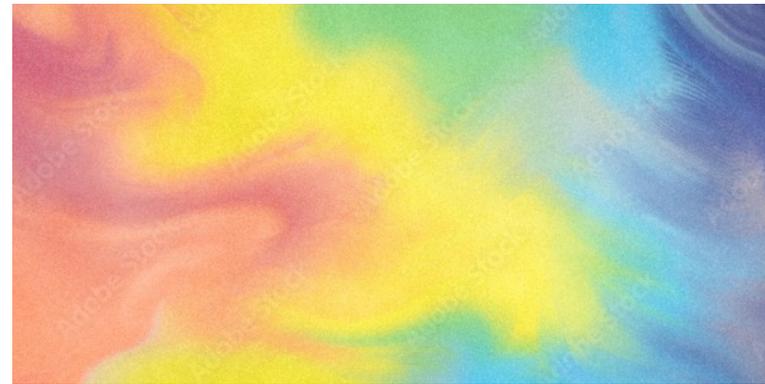
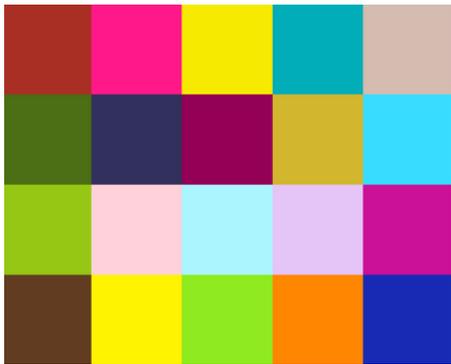
→複言語主義と行動中心アプローチ

# 複言語主義・複文化主義

それぞれの個人は多様な言語の経験を持っている。

複数の言語資源と文化資源をもち、

それぞれの「言語」が個別に機能するのではなく、相互に影響し合い、言語資源を必要に応じて、相手に応じて自分の知識を総動員してコミュニケーションする。



イメージ：「言語」が個々に存在するのではなく、マーブル的に存在

# 複言語主義・複文化主義

- Partial knowledge 「部分的」知識を重視
- 限定的な知識や運用力が必要とされる場合の特定技能の習得を肯定的に捉えて重視する。
- Giving **formal recognition** to such abilities will help to promote plurilingualism through the learning of a wider variety of European languages.

# 行動中心アプローチ

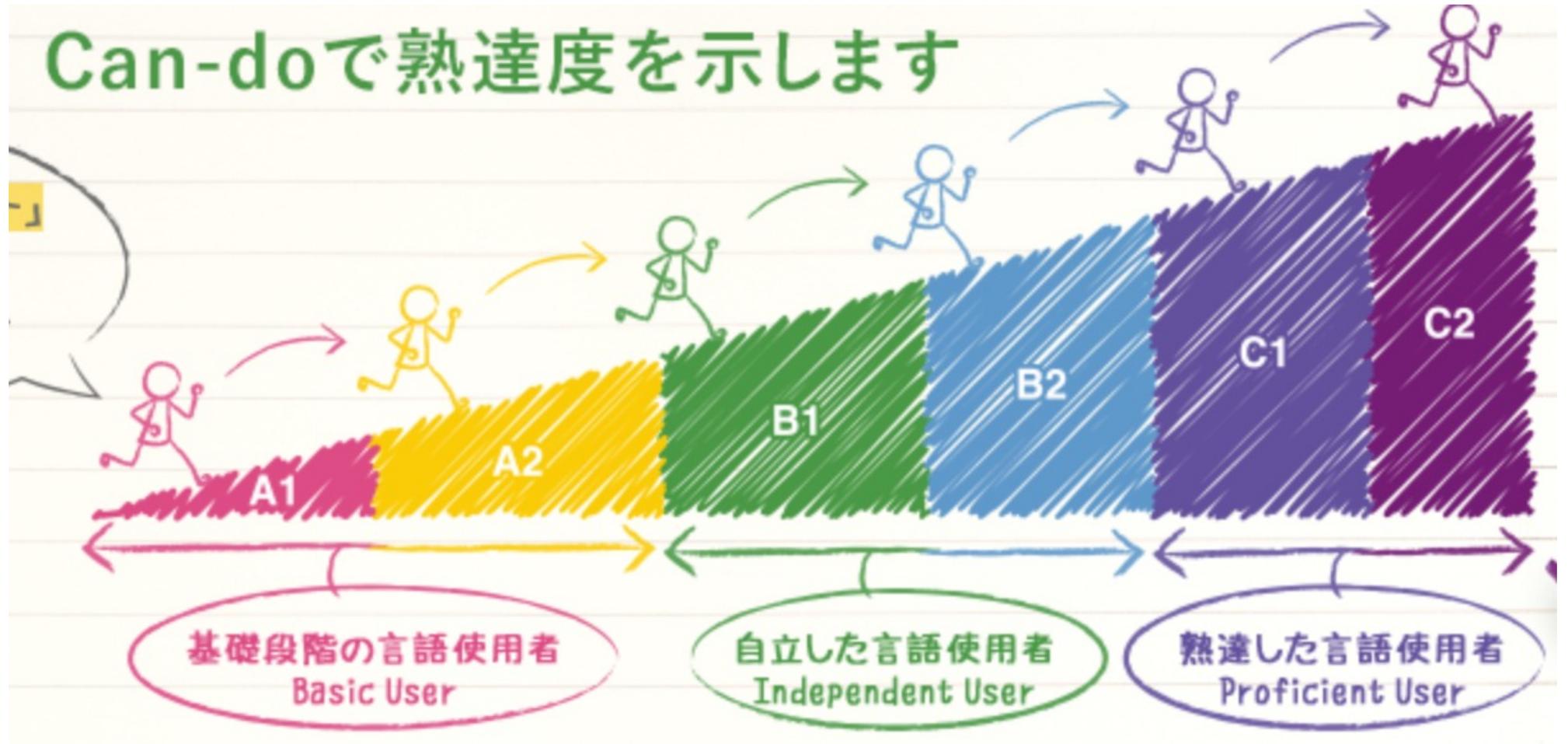
言語使用者、言語学習者を、それぞれの社会で何らかのタスクを遂行する社会的存在、行為者 (social agents) と捉える。

→このような理念も念頭に、CEFRでは能力記述を **can-do statements** (例示的能力記述文) と呼ばれる 「-ができる」 という記述文を、レベルに分けて示している。

<https://jfstandard.jp/cefr/ja/render.do>

# CEFR のレベル

- C2
- C1
- B2
- B1
- A2
- A1



※JFスタンダードの画像を引用

<https://www.jfstandard.jpf.go.jp/top/ja/render.do;jsessionid=33CE99D3DB62B1505C8CC14845B0E33B>

# CEFRには493のCan-do記述文

- 技能
- 領域
- 場所・機関
- 関係者
- 事物・トピック<sup>←</sup>
- イベント
- 行為
- テキスト

…などを検討したもの。

→それぞれの個人の言語使用の目的などに応じて選ぶ

# Can-do記述文：言語復興のための意義

- CEFRの理念に基づいた社会的存在である言語使用者の「基礎段階」から「自立した使用者」（そして「熟達した使用者」）というレベルの捉え方が言語復興にも有用である
- 復興を求めるコミュニティメンバーの考える言語使用を明確にできる
- 言語使用を可能にするための語彙、文法、表現などを優先してしまむに活動にとり入れることができる
- Can-doをレベル分けすることで学習目標などの設定が可能になる
- 学習の達成度の評価のために参照できる

# そもそも沖永良部語の使用には、何ができる can-doが相応しいのか

<言語復興のための学習や達成度評価に役立てるための**can-do作成のためのアプローチ**>

①既存の例示的能力記述文(以下「can-do」)から復興に有用と考えられる**候補を選択** (国際交流基金のcan-doサイト、吉島・大橋他2004を利用)

②言語の復興を望むコミュニティメンバーへの**聞き取り**

2024年3月「しまむにサロン」第1回ブレインストーミング

③コミュニティメンバーがしたいことのcan-doを、①を参照して**レベル分け**する (現在は作業初期段階)

# Can-do記述文の「活動」カテゴリー

受容：

- 聞く
- 読む

産出(情報交換、社交、物語るなど)：

- 産出・表現
- やりとり
- 書く

仲介：

- 言語間、文化間の仲介

※上記の「活動」に加えて「方略」（話者の資質を補う）

# 産出・やりとり

- 自己紹介ができる
- 挨拶ができる
- プレゼンができる

→このようなCan-doは、相手、場面、準備（原稿の有無）、テーマなどによってレベルが異なるので、Can-doでは具体的に相手、場面、原稿があるかどうかなども記述される。

## Can-do記述文：

- 場所：家庭、学校
- 関係者：家族、友人、同僚
- 事物・テーマ：日常生活、娯楽、健康、旅行など
- イベント・行為：家族行事、パーティ、宴会

→CEFRの「活動」と「方略」のcan-doから言語復興にも有用と考えられる産出・やりとりのA1～B2レベルのcan-doを暫定的に  
選択：A1(6), A2.1(12), A2.2(17), B1(24), B2(14)

以下抜粋を例示する。

# AI Can-do記述文：

種類	言語活動	カテゴリー	Can-do
活動	産出	話すこと全般	人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。
活動	産出	経験や物語を語る	自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べるができる。
活動	やりとり	社交的なやりとりをする	紹介や基本的な挨拶、別れの表現を使うことができる。
活動	やりとり	社交的なやりとりをする	人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。
活動	やりとり	情報交換する	自分自身や他人の住まい、知人、所有物などについて質問に答えることができる。
活動	やりとり	情報交換する	「来週、前の金曜日、11月には、3時」などの表現を用いて時を知らせることができる。

## A2-A2.1 Can-do記述文：

種類	言語活動	カテゴリー	Can-do
活動	やりとり	情報交換する	個人的な情報を求めたり、提供したりできる。
方略	やりとり 産出	(表現できないことを) 他 の方法で補う	直接もの自体を指し示して、伝えたいことを相手に 分からせることができる。(例：これをください)
方略	やりとり	発言権を取る (ターン・テ イキング)	発言権を取るため、保持するために何らかの言語行 動を取ることができる。
方略	やりとり	説明を求める	理解できないと言うことができる。
活動	産出	話すこと全般	人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについ て、単純なプレゼンテーションができる。その際簡 単な字句や文を並べる。

## A2.1 Can-do記述文：

種類	言語活動	カテゴリー	Can-do
活動	産出	経験や物語を語る	家族、住居環境、学歴、現在やごく最近までしていた仕事を述べることができる。
活動	産出	経験や物語を語る	簡単な言葉で人や場所、所有物を述べるができる。
活動	やりとり	社交的なやりとりをする	招待、提案、謝罪をすることができ、またそれらに応じることができる。
活動	やりとり	社交的なやりとりをする	好き嫌いを言うことができる。
活動	やりとり	共同作業中にやりとりする	簡単な表現を使って日常の課題に関するやり取りができ、物を要求したり、与えたり、簡単な情報を得たり、次にすることを話し合うことができる。
活動	やりとり	情報交換する	直接的な情報交換を求めたり、日常の簡単な課題についてやり取りができる。

## A2.2 Can-do記述文

活動	言語活動	カテゴリー	Can-do
活動	やりとり	情報交換する	娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる。
活動	やりとり	情報交換する	簡単な説明や指示を与えたり、理解することができる。例：どこかへの行き方を説明する。
方略	やりとり 産出	(表現できないことを) 他の方法で補う	手持ちの語彙の中から不適切な言葉を使っても、言いたいことをはっきりとさせるためにジェスチャーを使うことができる。
方略	やりとり	発言権を取る (ターン・テイキング)	簡単なやり方で、短い会話を始め、続け、また終えることができる。
方略	やりとり	説明を求める	分からないときは、繰り返してもらおうよう単純な表現で頼むことができる。
方略	やりとり	説明を求める	手持ちの表現を使って、理解できていないキーワードや表現の意味の説明を求めることができる。

## A2.2 Can-do記述文

活動	言語活動	カテゴリー	Can-do
活動	産出	経験や物語を語る	誰かが今言ったことの意味を明らかにするよう、または詳しく説明するよう人に求めることができる。
活動	産出	経験や物語を語る	事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べることができる。
活動	産出	経験や物語を語る	出来事や活動の要点を短く述べることができる。
活動	産出	経験や物語を語る	習慣、日課の活動やを述べることができる。
活動	やりとり	母語話者とやりとりをする	簡単な、記述的な言葉を用いて、事物や所有物について短く述べたり、それらを比較できる。
活動	やりとり	社交的なやりとりをする	時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、標準語での話はたいてい理解できる。

# B I Can-do記述文

活動	言語活動	カテゴリー	Can-do
方略	やりとり	発言権を取る (ターン・テイキング)	馴染みのある話題や、個人的興味のある話題なら、対面での簡単な会話を始め、続け、終わらせることができる。
方略	やりとり	説明を求める	誰かが今言ったことの意味を明らかにするよう、または詳しく説明するよう人に求めることができる。
活動	産出	経験や物語を語る	自分の関心事で、馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べることができる。
活動	産出	経験や物語を語る	事柄を直線的に並べて行って、比較的流暢に、簡単な語りができる。
活動	やりとり	社交的なやりとりをする	身近な話題についての会話なら準備なしに参加できる。
活動	やりとり	社交的なやりとりをする	時には特定の単語や表現の繰り返しを求めることもあるが、日常的会話で自分に向けられたはっきりと発音された話は理解できる。

# B2 Can-do記述文

活動	言語活動	カテゴリー	Can-do
活動	やりとり	情報交換する	自分の職業上の役割に関するどのような事柄についても、複雑な情報や助言を理解・交換することができる。
活動	やりとり	情報交換する	どのような手順で遂行するか、明確な細かい指示を与えることができる。
活動	産出	経験や物語を語る	自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確で詳しく述べることができる。
活動	やりとり	社交的なやりとりをする	気持ちのありようを伝え、出来事や経験のもつ個人的重要性を強調することができる。
方略	やりとり 産出	(表現できないことを)他の方法で補う	未知の語彙を補う間接的な表現や言い換えを使うことができる。
方略	やりとり	発言権を取る (ターン・テイキング)	手持ちの言い回し(例えば「それは難しい問題ですね…」等)を使って、言うべきことを言葉にする間、時間を稼ぎ、発言権を保ち続けることができる。

# 「しまむにサロン」

毎月1回開催される

しまむに（の復興）に関心のあるコミュニティーメンバーが集う

今年3月のしまむにサロンでは

継承言語の習得（学び直し）の意義として、言語の知識を使って何かができるようになる、文化の仲介ができるなどがあるというプレゼンテーションの後、付箋を配布して、自分、子ども、孫がどのようなことができるようになることを望むかを書いていただいた。

# 第1回ブレインストーミングで出されたCan-do

## 【一般的can-do (CEFR)に類似】

- 受容
- 産出（話す）
- やりとり（話す）
- 産出（書く）

## 【しまむにサロン特有→しまむに継承のCan-do】

- 複言語的使用
  - 文化継承のためのしまむに：文化仲介とパフォーマンス
- 可能な範囲で基礎から列挙

# しまむにCan-do：産出（話す）

2	簡単なあいさつなどをしまむにでできるようにする
19	どこでも簡単な自己紹介をすることができる
50	親子でしまむにでは、おじいちゃん・おばあちゃん、親兄弟、親戚をどのように呼ぶかを知り、話す（使う）ことができる
22	子どもへの声掛け
41	体についての単語を覚えて、体について話すことができる
51	食べ物、道具等の名前を覚えて、道具について話すことができる
46	感情表現ができる
49	情景を言い表せることができる

※「話す」「書く」どちらか明確でないものも含む

# しまむにCan-do：やりとり（話す）

15	話していることに対してしまむにで答えることができる
27	家庭での日常会話をしまむにでできる
45	電話で使う表現を使いながら、電話で話すことができる
8	高齢者と日常会話をしまむにで話すことができる
7	介護の現場で高齢者としまむにで話すことができる

※受容も含む

# しまむにCan-do：産出（書く）

20	日記に自分のやったこと書くことができる
29	自分の子どもへのLINEのメッセージをしまむにで書くことができる
33	自分の同級生としまむにでLINEのやり取りができる

※やりとりも含む

# しまむに継承特有のCan-do：文化の仲介

## 特徴 | 文化の仲介

3	永良部の文化、歴史を紹介することができる
5	昔話の中にある人生についての教訓などを話すことができる
10	島のぬんき話について語れるようになりたい

※共通語を使って文化について語る

# しまむに継承特有のCan-do： 文化パフォーマンスのためのしまむに

## 特徴2 沖永良部島の「昔話」「島唄」「踊り」の継承

40	歌は島むにで覚えて、歌って、習慣化して、口ずさむことができる
16	島の民謡を唄うことができる
4	島に残る昔話をしまむにで語るすることができる
23	上平川大蛇おどりのしまむにでの指導ができる

※40,16,4は暗唱によっても可能なため、一般的言語能力基準でのレベル分けは難しいが、発音など特有の側面の習得は必要となる

# しまむにCan-do

## 特徴3. 「食」に関わるもの

48	食べ物の名前を覚えて、食べ物について話すことができる
24	しまむにを使いながら料理、お菓子作りができる
25	しまむにで料理/お菓子作りの説明ができる

※産出の話題、行為としての「食」の重要性が示されている

# しまむに継承に関わるCan-do:複言語使用

## 特徴4.しまむにと日本語を複言語的な使用（受容と産出）

34	(孫が)手紙などに書かれた、ありがとう(みへえでいろどー)、こんにちは(をうがみゃぶらー)、どういたしまして(あやぶらんどー)などの簡単なしまむにの表現を理解できる
37	娘との会話に島ムニの単語からでも、日常的に使いたい
38	家庭での日本語を使った日常会話の中にしまむにを取り入れることができる

# 現段階の示唆

1回のしまむにサロンでの聞き取りの結果に過ぎないが、以下の示唆が得られた。言語復興のためだからこそそのcan-doも認めらる。

- 1) 優先すべき特有の語彙がある（親族、食、体、道具）
- 2) ある程度は暗記で可能な挨拶・自己紹介・昔話の語りがある
- 3) 共通語にしまむにの単語や簡単な表現を混ぜることを厭わない
- 4) 文化・言語の仲介のcan-doも挙げられている

→言語復興に有用なcan-doとして、相手にもわかるしまむにを部分的に使う、あるいは、相手にわかるように仲介しながら部分的に使う、いわば、言語を混成する複言語能力が有用と考えられる（Elliot 2022, Sallabank & King 2021, Seals & Olsen-Reeder 2020).

# 今後の課題（予定）

- 「高齢者と話す」「電話で話す」など相手・場面・話題などの具体性がないためにCan-doが曖昧でレベル不明のものも多いため、明確にしていく
- しまむにサロンの参加者以外の意見も聞き取りを行う
- 共通語からの「借用」と「混成」（の識別）について検討する
- 言語復興に有効なしまむに混成のための複言語能力のレベルについて検討する

# 参考文献・資料

- 横山晶子 (2020) 「日本の「危機言語」、島ことばの記録と再活性化の試み」  
[https://tufs.repo.nii.ac.jp/record/2606/files/field-24\\_p20-22.pdf](https://tufs.repo.nii.ac.jp/record/2606/files/field-24_p20-22.pdf)
- 横山晶子 (2021) 「しまむに意識調査報告書」  
<https://docs.google.com/document/d/1VuYYYYYGrmnwyPJ3HEggMubJTjMWGZ9a7cqp5nfSg0-E/edit?usp=sharing> (2024年6月12日アクセス)
- 横山晶子(2022) 「鹿児島県沖永良部語国頭」 『日本の消滅危機言語・方言の文法記述』 [https://repository.ninjal.ac.jp/record/3573/files/kikigengo202203\\_11.pdf](https://repository.ninjal.ac.jp/record/3573/files/kikigengo202203_11.pdf)
- 横山晶子・籠宮隆之 (2018) 「言語実験に基づく言語衰退の実態の解明－琉球沖永良部島を事例に－」 『方言の研究』 5: 353–375. ひつじ書房.
- 吉島茂・大橋理枝 (訳・編) (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのロツパ共通参照枠』 朝日出版社

# 参考文献・資料

- Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press.
- Elliot, R. (2022). Language revitalization as a plurilingual endeavour, In E. Piccardo, A. Germain-Rutherford, & G. Lawrence (Eds.), *The Routledge handbook of plurilingual language education* (pp. 435-448). Routledge.
- Sallabank, J. & King, J. (2021). What do we revitalize? In J. Olko & J. Sallabank (Eds.) *Revitalizing endangered languages: A practical guide* (pp. 33-46). Cambridge University Press.  
<https://www.cambridge.org/core/books/revitalizing-endangered-languages/ADCBBA31190F259BA13525C769E92A9A>
- Seals, C. A., & Olsen-Reeder, V. (2020). Translanguaging in conjunction with language revitalization. *System*, 92. No. 102277
- 国際交流基金 JFスタンダード「みんなのcan-doサイト」  
<https://www.jfstandard.jpf.go.jp/cando/top/ja/render.do>